

22
2015.12月20日 C班 氏名

濱口桂一郎『新しい労働社会—雇用システムの再構築へ』
岩波新書 2009年

グループ研究の総括

- 1、日本型雇用システムとは採用における新卒採用制と退職における定年制が特徴的な制度である。
- 2、「名ばかりの管理職」問題では、管理監督者はどれだけ働こうが休日無しで働いたとしても労働時間規制がないため法律上の問題がない。
- 3、非正規労働者の低賃金問題を解決するためには賃金制度改革が不可欠と言われているが簡単には変えることができない。
- 4、近年、所得格差の問題から生じる働いても働いても豊かになれないということから特に若者における非正規雇用が増大しワーキングプアが目立っている。
- 5、ワーキングプア生じ始めたのは、バブル崩壊でフリーターが増えたことや女性が家庭との両立ができる働き方はパートタイマーでしかなかったこと。
- 6、近年では一度正社員を辞めてしまうと再就職先で非正規雇用となることが多い。
- 7、非正規労働者が増えていき中年化していくことで社会保障システムの脆弱化や少子化の進展が懸念されるようになってきている。
- 8、失業者達が生活保護を受給するのは依存することから難しいという。
- 9、2008年のリーマンショックが起きて派遣切りが問題視されたが政府がこのような事態が起きたときの解決策を準備していなかった。
- 10、今、現在では正規労働者と非正規労働者の間に均等を論じるような共通な物差しがないことが非正規労働者の生活ができない原因となっている。

評価・見解

非正規労働者たちが妥当な賃金をもらって安定した生活がおくれるようにするためにはやはり、政府や企業が解決策を打ち出していかなければならないと思いました。可能ならば賃金制度改革を進めていき非正規労働者の賃金を見直していかなければいけないと思いました。

近年では一度正社員の仕事から離れてしまうと再就職ではまた正社員として働くのは難しいことから非正規雇用になってしまうので最初の職業選択は重要だと感じました。

ワーキングプア問題のところで女性のパートタイマーの問題が出てきましたが、もっと政府や企業側が女性が育児や家庭の両立ができ安定した賃金を制定し働きやすい環境を作っていかなければならないと感じました。